

ミニレポート vol.49

公的年金の運用損失が過去最大に



ウチヌノ人事戦略事務所 社会保険労務士 内布 誠

公的年金の運用損失が過去最大に

◆運用利回りがマイナス 6.41%に

公的年金の積立金を市場運用する年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は、2007 年度の運用利回りがマイナス 6.41%になったことを発表しました。少子高齢化により、給付と負担のバランスが年々崩れていくなか、公的年金の運用損失が過去最大となったことで、より厳しい現実を認識せざるを得ない状況となりました。

◆世界株安の影響

2007 年度は、米国の低所得者向け住宅ローン（サブプライムローン）問題に端を発した世界的な株安により、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用損失は、過去最大の 5 兆 8,000 億円に膨らみました。マイナス運用になったのは 2002 年度にマイナス 8.46%となって以来です。ただ、当時よりも運用金額が 3 倍近くあるため、損失は 2007 年度のほうが大きくなっています。

GPIF 側は、「運用成績を長期的にみれば 2007 年度のマイナスを勘案しても与えられた運用目標は達成されている」としています。しかし、現在の積立金運用は硬直的であるとの批判が多く、運用を効率化する必

要も指摘されています。

◆日本の運用成績は

企業の格付や年金資産等の運用成果の分析評価を行う格付投資情報センターが、約 130 の企業年金を対象に実施した調査によると、2007 年度の運用利回りはマイナス 10%弱でした。それに比べると、公的年金は株式の比率が低い分、マイナス幅は小さかったと言えます。ただ、中期的にみると、日本の公的年金の運用成績は海外の年金基金に比べて見劣りします。2006 年度までの直近 5 年の運用成績を比較すると、日本の 3.5%に対し、カナダ 10.4%、オランダ 7.2%、ノルウェー 6.9%と、日本の運用成績の悪さが目立ちます。

しかし、日本の運用利回りが海外に比べて低いのは、債券の運用比率が 60%以上と突出して高いことも理由の 1 つです。低リスクで低リターン of 債券での運用は、投資においてリスクを嫌う日本人の気質にあった運用方法とも言えますが、債券への過度の傾斜は逆にリスクが大きいとの指摘もあります。

国内外の株式や債券という伝統的な資産のほかに、商品（コモディティ）や不動産など代替資産に分散投資することによって運用を効率化すべきだとの声も多く、今こそ大切な積立金の運用について再考すべき時期に来ていると思われま